

48
するを得へし、然れともニツケル其の他合金鋼に於けるか如く全く斷定的に安全なりと云ふには非
す。

●昨年度に於ける世界商船建造額

(“Engineer”—Feb. 4, 1916)

昨一千九百十五年度に於ける世界商船建造額は各交戦國海軍の要求其の他の原因に依り實際の報告を得ること頗る困難なりしを以て吾人は此の事業に對する評論を發表するの機會に接せざりき。ロイド協會は世界各地に検査官を派遣しありて、各其の地方の建造數を知ること比較的容易なりと雖、敵對國側の國々よりは報告を得ること能はざるを以て、此の點より言へばロイドの報告と言へとも、完全と稱するを得ざるなり。故に此の非常の時期に於ける商船建造額を以て常時に於けるそれと比較し以て造船界の趨勢を窺はむとするか如きは素より輕卒に失するの嫌ありと雖、世界を通して商船の建造額は戦亂前三四年間の平均産出年額に比し約三分の一を少しく超過するに過ぎざること記憶するは、今後の海運界に取りて重要な事項たらずむはあらず。仍て吾人は最近刊行のロイドレヂスターより第二表を抄出して讀者の一察に供せむとす。

蓋し交戦國造船所は各自の海軍力を増加するか爲に力を割かれまた商船に全力を盡すこと能はざるか故に、中立國に取りては方に其の商船建造業を發展せしむべき絶好の機會なりとは一般に唱導せらるゝ所なりしに拘らず、事實に於て、昨年度の建造額を二年前の額に比較するに其の増加せるものは僅に丁抹に於ける四千二百六十六噸即ち一割〇五厘、和蘭に於ける八千七百七十九噸、即ち七

分五厘那威の一萬一千四百三十三噸即ち二割二分二厘及ひ瑞典の一千七百九十五噸即ち九分七厘等に過ぎずして、北米合衆國に至りては歐洲交戰國の武器製造に職工を奪はれたる爲商船建造額は却つて著しき減少を示せり近時此れ等中立國造船所に多大なる商船の注文あり、其の結果は本年末の報告に接せされは明ならされとも、吾人は此際世界造船界に於ける英國の優越なる位置に變化を來すへしとなす人々の説に賛同すること能はざるなり。何となれば我か造船及造機の業に従事する人士はそれ／＼戰亂後に於ける英國の位置を自覺し益々斯業の基礎を確立せむと力むるに於て萬遺算なきを信すればなり。實に昨年度の如き交戰時中に於ても我か英國の建造額は全世界に於ける總建造額の半を占めたり之を戰亂前に於ては全世界の建造額の六割を占めたりしこと、對比すれば少許の減少なるを免れすと誰今日此の際としては充分なる位置と言ふを妨げざるへし。

先づ我か英國の造艦界に就て尙少しく仔細に觀察せむに、ロイドの報告に現はれたる數字は凡ての商船を含み補助巡洋艦として使用し得べき商船に就ては別段に記述する所なきも、其の數は昨年度の六十五萬〇九百十九噸中三百二十七隻あり、而して一昨千九百十四年度七ヶ月間平和の時期ありの一百六十八萬三千五百五十三噸中には六百五十六隻の補助巡洋艦を含めるも、最近に於て最も建造額の多大なりし千九百十三年度の一百九十三萬二千五百五十三噸中には僅に八十八隻を算するのみ、又昨年度進水の商船中三百十七隻六十四萬八千六百二十九噸は汽船にして、十隻二千二百九十噸は帆船、運貨船(バーヂ)其他此に類するものとす。尙全數中八割五分二厘五毛は英國の所有に屬し、餘の九萬六千百十六噸即ち一割四分七厘五毛は英國以外の國に屬す、此の割合は一昨年以前最近五ヶ年間の平均に依れば二割二分五厘なり。

船型に就て考ふるに一萬三千四百噸を最大とし他に一萬噸を超ゆるもの二隻あり、六千噸以上のものに至りては三十三隻にして全數の約一割を占む、全數を平均すれば二千〇四十六噸に相當すれ

50 とも五百噸以下のものを除外する時は平均値は三千七百九十一噸に達すへし、之れ最近五ヶ年間の平均値に比し甚た小なり。機關としてはパーソンズ式ギヤードタービンをも有するもの六隻五萬三千百九十二噸、内燃機關を備ふるもの二隻一萬〇七百噸あり、又七隻四萬三千六百六十五噸はイツシャード式縦通肋骨構造にして内四隻は普通構造の他の一隻と共に石油運搬船に使用せらるへきものなり。其の他クルーザー型船尾をも有する貨物船六萬六千三百三十四噸あり、トローラー及他種の漁船は百〇四隻を算す。

第一表は過去三ヶ年間に於ける英國各地方別の造船額を示せるものにしてロイドの報告に基き作製せるものなり。該表に依れば商船建造額の減少は全地方を通ずる趨勢にして即ち昨年度の建造額を千九百十三年度のものと比較するにグラスゴーに於ては僅に四分の一、クリンノックに於ては三分の一、ベルファストに於ては同しく四分の一、北西岸地方に於ては概して三分の一なり。勿論ロイドは軍艦の建造に就ては何等記述する所なし、若し之をしも計上し來らば英國に於ける軍器(軍艦、艦裝品共)製造事業は假令空前と稱す可らずとするも少くとも過去に於ける最も繁忙なる時期と匹敵し得へき一時代を成せるものたるを知らむ。

英國以外の國々に於ける商船建造額は第二表に依れば五十五萬〇七百十九噸となり、英國の建造額に比し約十萬噸少し、右の内汽船三百十三隻五十一萬八千九百四十八噸、帆船百〇三隻三萬一千七百七十一噸あり、之を千九百十四年度に比すれば五割三分の減少となり、十三年度に比すれば八十五萬噸の減少を來せり、但し獨逸及澳洪國のものは全く不明にして此に算入しあらざることとは記憶せざる可らず。而して五千噸以上のものは三十三隻にして最大なるものは合衆國に於て建造せられたる約一萬一千噸の石炭運搬船なり。内燃機關を備ふるものは英國の二隻に對し十一隻あり、何れも一千噸以上にして總計四萬二千噸に達す、イツシャード式も亦頗る盛に行はれ、殊に米國を最とし

合計十二隻、七萬一千四百六十七噸に及ぶ、回轉汽機を有するものに於ては英國と同しく六隻なれとも噸數は三萬五千噸に過ぎず、石油運搬船に至りては六隻三萬三千噸と註せられ内五隻まで米國の建造する所にかゝる。

翻つて少しく各國の狀況に就き一言せむに、米國に於て進水せられたるもの十七萬七千四百六十噸、之を前年度に比すれば二萬三千三百〇二噸の減少なり。此の内海岸地方に於て建造せられたる航洋船十三隻あり、何れも五千噸乃至七千噸級のものにして尙約一萬一千噸の石炭運搬船一隻あり。

和蘭の十一萬三千〇七十五噸は前年度に比し約五千噸の減少なるか、右は河川用の船舶を含ます、而して河川用のものは約七千噸位なる模様なるを以て之を合算すれば十八萬三千噸に達すへし八千噸を最大とし他に五千噸乃至七千五百噸のもの四隻を包含せり。那威の六萬二千〇七十噸は前年度に比し八千噸の増加を示し此の國空前の建造額たり。船型は從來と同様主として一千噸乃至二千噸級のものなるか、内一隻二千六百噸のモーターシップを有す。日本に於ては四萬九千四百〇八噸を進水す前年度に比し四割二分の減少なり。主なるものを九千五百噸型二隻及び回轉汽機を有する七千三百七十五噸のもの一隻とす。丁抹の四萬五千九百九十八噸に至りては前年度を超過すること約一萬三千噸、此の國最高の記録を作れり。内六隻三萬噸はジーゼル機關を備ふ。

以上昨年度進水の商船中三百七十八隻八十七萬四千七百七十五噸英國以外のもの九十一隻二十九萬九千七百四十三噸はロイド協會検査官の監督の下に建造せられたり。

第一表 千九百十三年より十五年に於ける英國各地方商船建造及總噸數

地 方 名	1 9 1 5		1 9 1 4		1 9 1 3	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
Aberden	33	7,103	47	10,190	38	11,148
Barrow, Mary port, and Workings ton	3	2,174	1	284	4	1,837

Belfast	8	33,729	21	229,819	15	129,081
Dundee	5	4,587	10	11,793	8	17,944
Glasgow	45	196,203	110	248,103	150	415,044
Greenock	28	98,870	51	196,518	64	269,743
Hartlepool and whitby	13	56,308	29	124,419	33	153,071
Hull and Grimsby	65	21,018	93	53,726	88	49,682
Leith	10	5,889	17	18,671	17	18,901
Liveer pool	8	10,672	15	39,465	16	34,401
Middlesbro & Stockton	30	58,574	70	137,165	62	154,743
Newcastle	36	124,001	91	315,515	94	69,331
Sunderland	31	110,942	72	277,528	78	239,964

第二表 : 一八八九年より千九百十五年に至る各年に於ける世界各國商船進水噸數(總噸數百噸未満のものを含ます)

年次	英國	英領諸國		澳洲國	丁抹	佛蘭西	獨逸	和蘭	伊太利	日本	那威	瑞典	北米合衆國		其他の諸國	合計	
		加拿陀	大湖地方										海岸地方	大湖地方		隻數	總噸數
1899	1,416,791	6,475	1,889	9,218	26,613	89,794	211,684	34,394	49,472	6,775	27,853	10,367	146,108	78,170	6,016	1,269	2,121,738
1900	1,442,471	6,967	2,596	14,886	11,060	116,858	204,731	45,074	67,522	4,543	32,751	5,735	150,362	142,565	15,439	1,364	2,304,163
1901	1,524,739	16,610	11,524	20,013	22,856	177,543	217,593	29,927	60,526	37,208	36,875	8,241	368,091	165,144	20,649	1,538	2,617,539
1902	1,427,558	18,235	10,584	15,192	27,148	192,196	213,961	69,101	46,270	27,181	37,878	9,030	223,360	155,814	29,247	1,650	2,502,755
1903	1,190,618	20,866	13,824	11,328	28,609	92,768	184,494	59,174	50,089	34,514	41,569	11,855	211,219	170,601	24,073	1,650	2,145,631
1904	1,205,162	27,953	3,712	16,645	15,859	81,245	202,197	55,636	30,016	32,969	50,469	10,267	189,430	49,088	17,987	1,643	1,987,935
1905	1,623,168	45	10,798	16,402	17,557	73,124	235,423	44,135	61,629	31,725	52,580	5,282	107,368	195,453	20,272	1,576	2,514,922
1906	1,828,343	16,026	10,016	18,590	24,712	35,214	318,230	66,807	30,560	42,489	60,774	11,579	169,358	271,145	15,334	1,836	2,919,763
1907	1,607,890	21,479	24,994	8,717	28,819	61,635	275,003	68,623	44,666	66,254	57,556	11,781	217,530	237,145	26,026	1,788	2,778,088
1908	929,669	25,512	8,669	23,502	19,172	83,429	207,777	58,604	26,864	59,725	52,839	9,546	158,645	145,898	23,433	1,405	1,833,288
1909	991,066	6,592	8,690	25,006	7,508	42,197	128,696	59,106	31,217	52,319	82,601	6,316	80,485	129,119	12,960	1,063	1,602,057
1910	1,143,168	14,601	11,742	14,304	12,154	80,751	159,303	70,945	23,019	30,215	36,931	8,904	117,607	153,717	20,497	1,277	1,957,853
1911	1,833,814	16,006	3,656	37,836	16,689	125,472	235,532	63,050	17,401	44,359	35,435	9,427	95,593	75,876	17,864	1,599	2,650,140

1912	1,738,514	25,090	6,700	38,821	26,103	110,734	275,317	99,439	25,196	57,755	50,355	13,968	194,273	89,950	46,654	1719	2,901,769
1913	1,932,153	26,744	21,595	61,757	49,932	176,095	465,229	104,296	50,356	64,664	50,637	18,524	228,332	48,216	43,455	1750	3,332,882
1914	1,683,553	22,288	25,246	34,335	32,815	114,052	*387,162	118,153	42,981	85,861	54,204	15,163	162,937	37,825	*36,148	1319	*2,852,753
1915	650,919	13,289	8,725	+	45,198	23,402	+	113,075	22,132	49,408	62,070	20,319	157,167	20,293	*13,541	743	*1,201,638

注意：一 *印を付したるは正確を期し難きもの 十印は全く未詳のものなり

(造船第五號拔)

●戦亂勃發後の獨逸經濟實狀

鐵工業に關する狀況

△工業動員の迅速 今次の大戦に於て兵器並に一般軍需品の豊富なるは、内外の等しく驚嘆する所なるか、其實況を察するにクルップの如き二三の兵器専門工場を除けば戦時なりとて、特に事業の新設又は擴張を試みたるもの殆ど之れ無きに似たり、蓋し孤立經濟の現状に於ては、現に有する工業力を利用する以外補充の道無ければ也、只平時輸出品の製作に充當せる約五割の工業能力は勿論、自餘の能力をも舉げて軍器の製造に集中せしめたる點に於て趣を異にするに過ぎざるなり、さあれ平時より戦時に對する準備を怠らす、各工業を系統的組織的に發達訓練せずんば奚てか之を克くし得べき、今軍器供給力の尺度を以て稱せらるゝ製鐵業に就て、戦前の狀況を見るに、獨逸國千八百八十六年の銑鐵産額は七十五萬餘噸にして、英國の三分の一にも及はざりしか、千九百年には、一躍六百六十四萬餘噸を産して英國を遙に凌駕し、千九百十二年に至りては、千七百三十萬餘噸恰も英國の二倍半強を示したり、即ち其國內に鐵鑛石と石炭の埋藏量洵に豊富にして、地の利を得たるに加へ、科學的研究に基く作業能力の優秀なる結果と見るべき也、而して斯業の生産狀況は、克く戦時に適合し開戦後三